

エコアクション21

環境経営レポート

2023 年度

(運用期間:2023年 6月～2024年 5月)



発行日:2024年10月1日

海郷株式会社

目 次

1. 組織の概要	1
2. 認証・登録の対象範囲	1
3. 環境経営方針	2
4. 環境経営目標	3
5. 環境経営計画	4
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	5
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果と その評価の実績、並びに今後の取組	7
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価 の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	10

1. 組織の概要

- (1) 事業所名 海郷株式会社
代表者氏名 代表取締役 水頭 元嘉 (スイトウ モトヨシ)
- (2) 所在地 本社・カット場 〒841-0043 佐賀県鳥栖市水屋町1934-1
パック加工場 〒841-0024 佐賀県鳥栖市原町字中尾1290-1
Eメールアドレス motsuito@umisato.co.jp
- (3) 環境管理責任者 管理部 部長 野口孝行 (ノグチ タカユキ)
連絡担当者 管理部 部長 野口孝行 (ノグチ タカユキ)
連絡先 TEL 0942-87-8771 FAX 0942-87-8772
- (4) 事業の内容 水産物輸入買付卸売業(主として冷凍釣り餌)
URL <https://www.umisato.co.jp>
- (5) 事業の規模 総売上額: 1,390百万円(2023年度)
- | 区分 | 単位 | 事務所 | 本社カット場 | パック加工場 | 合計 |
|------|----------------|-----|--------|--------|-----|
| 従業員数 | 人 | 12 | 4 | 4 | 20 |
| 延床面積 | m ² | 120 | 240 | 360 | 720 |
- (6) 事業年度 6月～翌年5月

2. 認証・登録の対象範囲

- (1) 対象事業所 本社・カット場、パック加工場
- (2) 対象活動 釣り餌用水産物の仕入、加工、卸売事業
- (3) 対象外事業所・活動 なし(全組織・全活動を対象)

環境経営方針

<環境経営理念>

私たち、海郷株式会社は『法令遵守』を経営理念として掲げ、環境に配慮した事業活動を行い、特に社員の結束を強みとして、人と自然が共生できる環境づくりに取り組んで参りました。

今、私たちは、こうした事業活動に伴うエネルギーや資材の使用が地域及び地球の環境に影響を与えていることを十分に自覚し、全社をあげて環境問題に積極的に取り組み、環境経営の継続的改善により、持続可能な社会づくりに貢献して参ります。

<環境行動指針>

当社の環境経営理念に基づき深刻化する環境問題への対応を経営上の最重要課題とし、以下の事項について自主的、積極的、継続的に取り組みます。

1. 当社の事業に関連する環境関連法規等を遵守します。
2. 当社は下記事項を重点項目として、環境活動を計画的に取り組み実施します。
 - (1) 電力、燃料等のエネルギーの効率的な使用及び省エネに努め、二酸化炭素排出量を削減します。
 - (2) 廃棄物排出量の発生抑制とリサイクルを推進します。
 - (3) 節水に努め、水使用量を削減します。
 - (4) 当社の主要製品である釣り餌が利用される釣り場の環境改善、維持に貢献できる製品の生産、買い付け、販売に努めます。
 - (5) 地域及び釣り場の環境保全活動に積極的に参加、この活動を通して釣り場環境の改善と社員、釣り人、地域住民の意識向上と啓蒙に努めます。
3. 当社の毎年の環境への取組状況を環境経営レポートにとりまとめ、全社員に周知させ、一般にも公表します。



制定日 2021年10月1日

海郷株式会社

代表取締役社長 水頭 元嘉

4. 環境経営目標

- ・環境経営目標は、当社の事業活動を踏まえて、2021年度と2022年度～2024年度までの中期目標として、以下の4項目8目標を設定しています。
- ・主要な環境負荷である二酸化炭素排出量と水使用量については、基準年(2020年度実績値)を基準に、毎年1%ずつ削減し、2024年度までに4%削減を目指します。
- ・事業活動で取り組む本業目標については、「釣場環境の維持、改善」を掲げ、全社をあげて取り組んで環境経営を推進していきます。
- ・なお、本運用期間の数値目標は、基準年同期間の実績値に削減率を乗して設定しました。

環境経営目標	単位	基準年 2020年度 実績値	単年度目標	中期目標			
			2021年度 (1%削減)	2022年度 (2%削減)	2023年度 (3%削減)	2024年度 (4%削減)	
		2020.6～ 2021.5	2021.6～ 2022.5	2022.6～ 2023.5	2023.6～ 2024.5	2024.6～ 2025.5	
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg・CO ₂	248,840	246,350	243,860	241,370	238,890	
①電気使用量の削減	kWh	153,917	152,380	150,840	149,300	147,760	
②ガソリン使用量の削減	ℓ	2,242	2,220	2,200	2,170	2,150	
③軽油使用量の削減	ℓ	65,858	65,200	64,540	63,880	63,220	
2. 廃棄物排出量の削減							
①一般廃棄物(可燃ごみ)排出量の削減	kg	29,358	29,060	28,769	28,482	28,197	
②産業廃棄物のリサイクル率向上	% (リサイクル率)	100	100	100	100	100	
3. 水使用量の削減	m ³	414	410	410	400	400	
4. 環境に配慮した事業活動の推進							
①釣場環境維持、改善を訴求した製品の開発、販売促進	百万円 (販売実績)	186	188	190	192	193	
②釣人が気持ちよく釣りを楽しめる釣場環境の維持、改善の為に活動推進	回	3	3	5	6	6	

備考)・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.479kg-CO₂/kWh(九州電力(株)2020年度調整後排出係数)を使用した。

・()内の数値は、基準年(2020年度実績値)に対する削減率を示す。

・サイト区分の全社とは、事務所+現場を示す。

5. 環境経営計画

前出4項において環境経営目標を設定し達成するために下記具体的取組みを策定し、責任者及び全社員一丸となって取り組みました。

1. 二酸化炭素排出量の削減

活動項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①電気使用量の削減	宮寄	1. 本社事務所の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する	二見	冷房期：5～9月 暖房期：11～3月
		2. 不要な照明の消灯・業務外時間のパソコン、プリンターの電源OFF	二見	通年
②ガソリン使用量の削減	宮寄	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	水頭、邊	通年
		2. 公共交通機関利用促進	水頭、邊	通年
③軽油使用量の削減	宮寄	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	伊藤	通年
		2. 不用品を車両から降ろして車両の軽量化を図る。	伊藤	通年
		3. 保冷库温度保持のための夜間アイドリングの削減	伊藤	通年
		4. 車両の点検、タイヤ圧の適正管理、車内の整理整頓による効率運行に努める。	伊藤	通年

2. 廃棄物排出量の削減

活動項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減	宮寄	1. 資源ごみと燃えるごみを分別して重量を計測し記録する	紫村	通年
		2. 裏紙使用を徹底し、コピー用紙の使用量を削減する	弥永	通年
		3. 適正な廃品回収業者を使用し、正確な重量を測定し実態を把握する。	宮寄	通年
②産業廃棄物のリサイクル率の向上	宮寄	1. 現場における廃棄物の分別徹底	紫村	通年
		2. マニフェストの管理を確実にし、リサイクル率の把握と向上を図る。	宮寄	通年

3. 水使用量の削減

活動項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①水使用量の削減	宮寄	1. 日常の節水・漏水の点検	紫村	通年
		2. 水の使用場所には節水シールを貼り、節水を喚起する。	伊藤	通年
		3. 洗車時には節水に心がける。	伊藤	通年

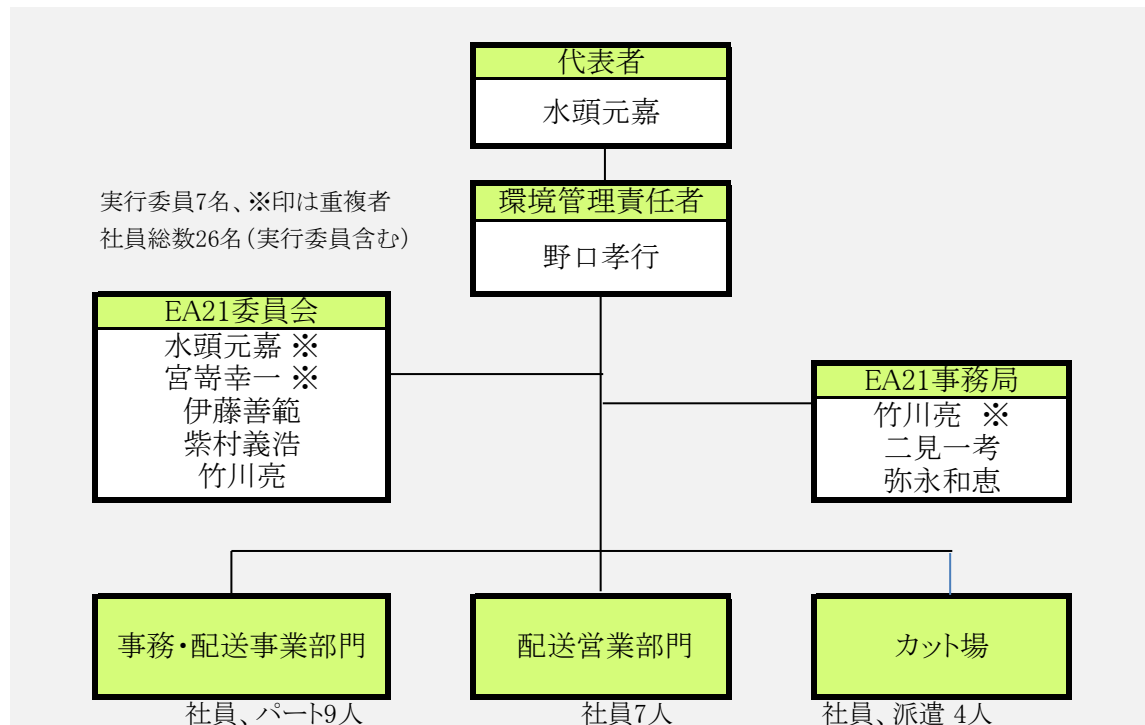
4. 環境に配慮した事業活動の推進

活動項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①釣場環境維持、改善を訴求した製品の開発、販売促進	宮寄	1. 環境保全を訴えるコピーを表示したパッケージの製品販売拡大	伊藤	通年
		2. 環境にやさしい添加物を使用した加工品の開発と販売促進	竹川	通年
②釣場環境の維持、改善の為の活動推進	宮寄	1. 釣場環境維持のため、自社独自もしくは業界団体と一緒に定期的に釣り場の清掃を行う	紫村	通年
		2. 釣場環境維持のため、当社HPや商品パンフレットなどを通して釣り人のマナー向上、釣場環境維持、改善のための啓蒙活動を行う	伊藤	通年

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

- ・2022年度運用期間に当社が実施した環境への取組みは、以下のとおりです。
- ・実施に当たっては、社内に次のような実施体制を構築して、全社員が一丸となって実施しました。

(1) エコアクション21実施体制



(2) 2023年度運用期間に実施した環境への取組

環境負荷を削減する取組



Eco Action 21
取り組み
表示パネル

省エネ、Eco Action 21ミーティング



廃棄物
保管場所
保管状況

廃プラ搬出後
の写真

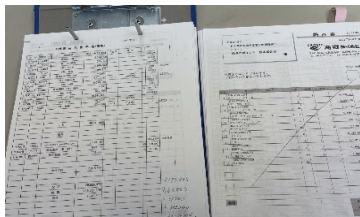
CO2削減

エコドライブ喚起ポスター



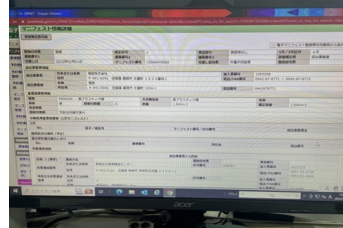
環境負荷を削減する取組

裏紙の活用(裏紙使用状況)



ごみ減量

電子マニフェスト導入(画面)



節水喚起札



水の減量

節電喚起シール(電気、エアコン)



CO2削減

環境を良くする取組



天然素材の添加剤使用

環境共生

MSC(Marine Stewardship Council、
海洋管理協議会)認証、資源管
理されたオキアミの取り扱い



釣人への環境保全啓発

地域共生



釣場環境清掃活動

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組 結果とその評価の実績、並びに今後の取組

(1)環境経営目標の実績

・2023年度環境経営目標達成状況は以下のとおりである。設定した環境経営目標4項目7目標のうち、ガソリン、軽油使用量削減、環境配慮製品の販売促進、釣り場環境の維持、改善のための活動推進が未達であったが、電気使用量、一般廃棄物排出量の削減、産業廃棄物のリサイクル率の向上の4目標を達成することができました。

・二酸化炭素排出量については、全般に販売不振の中、営業活動、配送車の稼働を昨年より抑えたことにより、軽油使用量が昨対比98.8%となりました。但し、電気使用量の微増により、全体の二酸化炭素排出量は未達ではあるものの目標比97%で終わりました。

・一般廃棄物と産業廃棄物の削減については、2022年度の実績を踏まえ、目標を設定し取り組みました。また回収業者を変更、電子マニフェスト導入により実態が正確に分かるようになり、当初の目標値を大きく上回る結果となりました。

・本業目標とした「環境配慮製品の販売促進」については、コロナ明けの釣行の減少により通期で95%と目標未達となりました。「釣り場環境の維持、改善の為の活動」については、販売不振の折、営業活動を優先させたため、今期は2回のみの実施に終わりました。

環境目標	単位	2023年度運用期間 (2023年6月～2024年5月)		目標 達成率 ※2	目標 達成評価 ※3
		目標※1	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	241,370	249,598	97%	△
①電気使用量削減	kWh	149,300	109,029	137%	◎
②ガソリン使用量削減	ℓ	2,170	2,430	89%	△
③軽油使用量削減	ℓ	63,880	74,299	86%	△
④液化石油ガス(LPG)削減	kg	—	—	—	—
2. 廃棄物排出量の削減					
①一般廃棄物排出量の削減	kg	28,482	10,352	275%	◎
②産業廃棄物のリサイクル率の向上	% (リサイクル率)	100	100	100%	○
3. 水使用量の1%削減	m ³	400	279	143%	◎
4. 環境に配慮した事業活動の推進					
①環境配慮製品の販売促進	該当製品販売 額(百万円)	192	183	95%	△
②釣り場環境の維持、改善の為の 活動推進	実施回数	6	2	33%	×

備考)※1 目標値は基準年(2021年度)の同期間実績値から削減率を乗じて設定した。

※2 目標達成率の計算 目標÷実績×100(削減目標の場合)、実績÷目標×100(増加目標の場合)

※3 評価区分◎:目標達成率≥120% ○:100%≤達成率<120% △:80%≤達成率<100% ×:達成率<80% —:判定不可

※4 化学物質は自社事業活動で使用していないため、環境経営目標から除外した。

(2) 環境経営計画の実施・取組結果とその評価

・2022年度環境経営目標達成状況は以下のとおりである。設定したほとんどの項目で取組みができたが、良好な成果を上げたものと、目標設定が実態と合わず未達成に終わったものがあります。

1. 二酸化炭素排出量の削減

活動項目	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①電気使用量の削減	◎	1. 本社事務所の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する 2. 不要な照明の消灯・業務外時間のパソコン、プリンターの電源OFF	◎ △	<現状> ・電気使用量を削減できたのは、左記取組みの他、2021年にカット場自社冷蔵庫の冷凍機を交換したことが削減目標達成の要因と考える。 ・社長車、営業車の稼働増によりガソリンの使用量が増加した。 ・配送車に関しては、左記取組みにより軽油使用量は98.8%と若干減少した。 ・しかしながら、電気使用量の削減により全体の二酸化炭素排出量は計画を下回ったものの、目標比97%となった。 <今後> 現在の取組を継続する。
②ガソリン使用量の削減	△	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける 2. 公共交通機関利用促進	◎ ○	
③軽油使用量の削減	△	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける 2. 不用品を車両から降ろして車両の軽量化を図る。	◎ ◎	
		3. 保冷库温度保持のための夜間アイドリングの削減 4. 車両の点検、タイヤ圧の適正管理、車内の整理整頓による効率運行に努める。	○ ◎	

備考) 達成状況判定区分 ◎：目標達成率≥120% ○：100%≤達成率<120% △：80%≤達成率<100%

×：達成率<80% —：判定不可

実施状況判定区分 ◎：よく実施されている（定着状態） ○：実施されている

△：ほぼ実施されている ×：実施されていない —：判定不可

2. 廃棄物排出量の削減

活動項目	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①一般廃棄物排出量の削減	◎	1. 資源ごみと燃えるごみを分別して重量を計測し記録する 2. 裏紙使用を徹底し、コピー用紙の使用量を削減する 3. 適正な廃品回収業者を使用し、正確な重量を測定し実態を把握する。	◎	<現状> ・従来、一般廃棄物の把握が不十分であったが2021年度途中に回収業者を変更したことにより実態把握が可能となった。 - 電子マニフェストも導入中。 <今後> ・現在の取組みを更に深化させ、廃棄物削減、資源の有効活用につなげてく。
②産業廃棄物のリサイクル率の向上	◎	1. 現場における廃棄物の分別徹底 2. マニフェストの管理を確実にし、リサイクル率の把握と向上を図る。	◎	

3. 水使用量の削減

活動項目	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①水使用量の削減	◎	1. 日常の節水・漏水の点検 2. 水の使用場所には節水シールを貼り、節水を喚起する。 3. 洗車時には節水に心がける。	◎	<現状> ・良く取組みができている。 <今後> ・現在の取組みを継続する。

4. 環境に配慮した事業活動の推進

活動項目	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①釣場環境維持、改善を訴求した製品の開発、販売促進	△	環境保全を訴えるコピーを表示したパッケージの製品販売拡大	△	<現状> ・販売先の拡大はできているものの、釣り業界全体の販売不振により売上は計画比97%に終わった。また、新商品の開発、販売が少額に終わった。
		環境にやさしい添加物を使用した加工品の開発と販売促進	△	
②釣場環境の維持、改善の為の活動推進	○	釣場環境維持のため、自社独自もしくは業界団体と一緒に定期的に釣り場の清掃を行う	○	<今後> ・新商品開発、販売スケジュールを立て、それに基づき進めて行く。
		釣場環境維持のため、当社HPや商品パンフレットなどを通して釣り人のマナー向上、釣場環境維持、改善のための啓蒙活動を行う	○	

(3) 今後の取組

1)環境経営目標について

・各目標については、実行できたもの、実現できなかったもの、現状把握に終わったものなど、まだ未達の目標と様々な課題が残っている。

・しかしながら、各目標については、2022年度に検討を重ね設定したものであり、これをベースにしながらも、今年度結果を踏まえ、特に一般廃棄物の削減目標などを見直し、2024年度の環境経営目標をたて、取り組みます。

2)環境経営計画について

・一般廃棄物排出量と産業廃棄物について、今年度は2022年度の実績を踏まえ具体的な数値目標を設定し取り組みましたが、回収業者の変更により正確な数値が分かり、目標と実績に大きな乖離があり、2024年度は同目標値を見直しして取り組みます。

・二酸化炭素排出量の中心となる軽油について、2021年度の配送車（保冷車、トラック）1台の増車により使用量が物理的に増えており、より現実的な目標を設定し、取り組んでいきます。

・今年度もコロナ明けの影響からか釣餌販売が不振であったため、十分な活動ができなかったが、環境配慮型製品及び販売活動の強化を図っていく共に、関連新商品の計画的開発と販売を進めていきます。

・その他の取組項目については、「5. 環境経営計画」に基づき2024年度も継続して取り組みます。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

- ・当社の事業活動、製品及びサービスに適用される主な環境関連法規等は、以下のとおり。
- ・2023年度の事業活動に対して、2024年6月に環境関連法規等の遵守状況を 確認・評価した結果、全ての法律で遵守を確認し、違反はありませんでした。
- ・また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

適用される法規等	適用される事項(施設・物質・活動等)	評価
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・排出 マニフェストの交付・回収・保管の適正処理	○
家電リサイクル法	製品廃棄の際の適正な引渡、処理料金の支払い	-
自動車リサイクル法	使用済自動車の引渡義務	-
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易定期点検の実施	○

備考) 評価区分 ○:遵守 -:該当なし

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

・今回の2023年度運用期間(2023年6月-2024年5月)終了後に、代表者による取組状況の全体評価と、計画の見しの必要性を検討しました。結果は、以下のとおりです。

(1)取組状況の全体評価

・環境経営の取組みは、2021年11月-2022年1月の試行期間及びその後の本運用期間(2022年2月-5月)に続き、今年度が3年目の取り組みでした。初年度は正に手探りの状況の中でエコアクション21に挑戦しましたが、今年度は今まで2年間で作り上げた仕組み、システムに沿った取り組みであったため、比較的にスムーズに運用、活動ができました。

・当社の年度取り組みの最終月は決算月が5月末日であることから、2年目の中間審査は2022年3月に、その後審査員の助言もあり2022年度から本審査を10月もしくは11月に受けることとしました。これにより当社決算期とエコアクションの管理年度期日を近づかせることができ、環境経営と事業運営をより関連づけることができるようになりました。

・各取り組み内容、目標値についても、まだ実態にそぐわないものが設定されていたり、真の目標となっていない所があったり、達成できたもの、取り組みが十分でないものなど様々な課題がより鮮明になってきました。また活動そのものもマンネリ化し緊張感が落ちてきたところも散見されますので、2024年度はこれら活動や目標値の見直しを行った上で、環境管理責任者、委員会メンバー、事務局メンバーを中心に全社一丸となりエコアクション21の活動をすすめ、かつこれらの活動を通して、会社の質、業績の向上に努めます。

(2)見直しについて

・2023年度の取り組みで明らかに不適切と判明した目標については、見直し、より現実的かつ挑戦的な目標値を作ることとします。また継続すべき項目も多く、2024年度はそれらに継続して取り組みます。

これらの活動を通して、2023年度は環境と経営双方の向上を目指す正にエコアクション21のシステムの確立に努めたいと思っています。



海郷株式会社

代表取締役社長 水頭 元嘉